まいづるパートⅡ

令和5年度　No.24　校長室だより

通算No.42（R6.　3.25）

霧島市立国分小学校長

２年間お世話になりました！

第４７代国分小校長　福留憲一

21 日の人事異動発表のとおり，今年度末をもって役職定年となり，霧島市立青葉小学校へ教諭として転出することになりました。（来年度末で正式な定年退職）

国分小では２年間という短い期間での勤務でしたが，児童や保護者，地域の皆さん，職員等多くの方に支えていただき，どうにかこの 2 年間を過ごすことができました。本当にお世話になり，ありがとうございました。

この２年間，私が訴えてきたことは，いずれ子どもは成長し独り立ちしていきますので，その基礎を培う必要があるということでした。つまり，**自立や自律の心**を養うことや**生きる力**をつける必要があるということになります。

自立や自律の心を養うためにはどうすればよいかを，これまでの学校だよりや校長室だより，学校ホームページのトップページの各種教育情報等でお伝えしてきたつもりです。

私が最も強く感じていることは，子どもに対して過保護，過干渉，放任は避け，自分の力で物事を解決できるようにさせることであり，そのためには**「転ばぬ先の杖」**ではなく，**「転んだ時の起き上がり方」**を教えていくことだと痛切に感じています。自由の大切さを理解するためには不自由さを経験する必要があると言われていますし，同じように自律を学ぶためには他律（人に律せられること）を経験する必要があるとも言われています。学校生活はまさにこれらの経験を自然に学ぶことができる場所になります。カリキュラムに従った学習や運動をしながら，学校生活や行事等をとおして，友達と協力したり，競い合ったり，話し合ったりすることで様々な経験をすることになります。そして，学校だよりの３月号にも書きましたが，京セラの故稲盛会長が訴えていた**「利他の心」**も重要だと感じています。

> 私たちの心には「自分だけがよければいい」と考える**利己の心**と、「自分を犠牲にしても他の人を助けよう」とする**利他の心**があります。利己の心で判断すると、自分のことしか考えていないので、誰の協力も得られません。自分中心ですから視野も狭くなり、間違った判断をしてしまいます。
> 一方、利他の心で判断すると「人によかれ」という心ですから、まわりの人みんなが協力してくれます。また視野も広くなるので、正しい判断ができるのです。
> より良い仕事をしていくためには、自分だけのことを考えて判断するのではなく、まわりの人のことを考え、思いやりに満ちた**「利他の心」**に立って判断をすべきです。　（稲盛和夫オフィシャルサイトより）

私自身，この**「利他の心」**についてまだまだだと感じていますが，このことを思うことは大事なことだと感じています。

子どもたちにとっての**毎日の様々な経験**は，目に，はっきりと見えるわけではありませんが，必ず**成長の栄養**になっていると思います。その栄養をこれからも十分与えていける私たち大人でありたいと思っています。

最後になって長々と書いてしまいましたが，国分小の子どもたちが，人の痛みや苦労が分かり，人に寄り添いながら強く生き，将来的に自立・自律できる人間に成長することを願っています。

この２年間，私の思いをこの**「まいづるパートⅡ」**で書かせていただきました。誤った考えや言葉が足らなかったこともあったと思いますが，これまでご愛読ありがとうございました。感謝の気持ちを込めて，筆をおきたいと思います。これまで本当にありがとうございました。

あと数冊届く予定です。

※　本来なら，お世話になった保護者や地域の方，職員など，全ての方にお礼の品等をお贈りしなければならないところですが，学校図書室への本（怪談レストランシリーズ等）の寄贈ということで代えさせていただきます。ご了承ください。